

人権教育広報

ふれあい

編集・発行 桶川市人権教育推進協議会



第11号



桶川東中学校 3年 山崎夏菜子

人権標語

いじめたら じぶんのころも いたくなる

●桶川西小2年 尾高 奈緒●

つたわるよ やさしさゆうき おもいやり

●加納小1年 松本 藍●

かなしいな いじめられても いじめても

●川田谷小3年 島村 啓人●

あいさつは なかよくなれる おまじない

●桶川東小3年 佐藤 怜●

みなちがう ちがうからこそ ささえあう

●日出谷小5年 輿石 愛華●

ありがとう ことばのたねで えがおさく

●朝日小2年 宮沢 肇●

思いやる 気持ち一つで 明るい未来

●桶川小6年 佐藤 美海●

気付こうよ「心が痛い。」の 非常ベル

●桶川中2年 安川 優果●

みとめあう ちがいは個性 自分いろ

●桶川東中3年 前島 京介●

ささえ合う それはすてきな 思いやり

●桶川西中1年 京野 真帆●

曇り顔 気づいてあげれば 光りさす

●加納中3年 加藤 瑞季●



キラキラ光る花を共に咲かせよう 桶川東小学校

本校では、『元氣 キラキラ けやきっ子』の学校教育目標のもと、人権教育目標を「一、偏見や差別に気づき、差別をなくしていく、二、教育活動全体を通して、人権感覚を養う」の二点として、日々の教育活動を通じて人権教育に取り組んでいます。

本校の人権教育に関わる中心的な活動として、児童会の企画・運営による朝の挨拶運動と、なかよし時間、けやきまつりがあります。

挨拶運動では、児童会の役員が昇降口の前で全校児童の登校時に明るい挨拶をかけて、気持ちのよい一日のスタートになるようにという思いで行っています。

なかよし時間では、一・四・六年生、二・三・五年生、と三学年

ずつで異学年の十人前後のグループを編成して、年間で十三回、運動場や室内で遊ぶ時間を設け、親交を深めています。その活動の中で、助け合い・譲り合い・教え合いなど、多くの「〇〇合い」が育まれています。そして、そのグループで行うけやきまつりは、上級学年がリーダーシップをとり、協力して出し物を考え、準備を進め、その中で「〇〇合い」をますます深めていきます。まつり当日はけやきっ子全員がキラキラ光っています。

これらの活動を通して、児童の心の中にキラキラ光る花を咲かせていきたいと思っています。



無限大 未来に飛び立て 加納っ子 加納小学校

本校は、今年開校百四十周年を迎えました。昨年から、PTA執行部が中心となり、「記念事業実行委員会」を組織し、関連事業の活動を進めてきました。

その一つとして、人が手をつなぎ輪をつくる形をデザインしたシンボルマークや「無限大 未来に飛び立て 加納っ子」というキャッチフレーズは、児童から作品を募集し決められました。

また、今年の運動会では、これからの加納小の発展を願い、聖火リレーが行われました。七十年代から各年代を経て、十代の子どもへ聖火のトーチが手渡され、代表ランナーは軽快なリズムにのせてトラックを回りました。保護者や地域の方々から温かい声援をいただきました。

き、すばらしい運動会となりました。

十一月三十日の記念式典では、加納中学校吹奏楽部の演奏、声楽家による歌唱、さら獅子舞、全校児童による詩の群読、出演者全員による「花は咲く」の合唱など、多くの方のご参加をいただきました。

子どもたちも、式典を通して、心の交流により深めるとともに、自分たちが地域の方々に支えられ見守られていることに、あらためて気づくことができました。

加納小学校百四十周年は、まさしく地域の皆様を支えられた歴史の学校として「加納の誇り」と言われる学校であり続けます。



本校では、学校教育目標「きらめく心光る汗」の具現化を目指し、重点課題のひとつとして「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする生徒を育成する」を設定し、教育活動全体を通じて、人権教育を推進しています。

小中連携事業として、振替休業日を活用し、部活動生徒が加納小学校の体育における「球技」の授業に参加しました。また、運動会では行進曲、百四十周年式典では合唱曲の演奏をしました。児童生徒の交流活動を持つことで、心の交流を図るにより、人権意識を高めています。

今年度も「加納中学校人権週間」を設け、身近に存在する差別や、人権に関する諸問題への意識を高めるため、映像資料を視聴しました。その資料をもとに、全校生徒が人権作文に取り組み、優秀作品を文化祭で全体に発表しています。

光っています。また、人権標語の作成にも取り組み、一人一人が人権について考える機会を設け、更なる人権意識の向上を目指しています。

委員会や部活動を中心とした清掃作業、あいさつ運動など、生徒主体のボランティア活動が活発に行われています。

今後もこれらの活動を継続し、地域とのつながりをもち、確かな人権感覚を育み、様々な問題を解決しようとする生徒の育成に努めます。



本校では「学ぶ意欲と豊かな人間性にあふれ進んで心と体を鍛える生徒の育成」を基本目標に掲げ、一、明るいあいさつ 二、輝くひとみ 三、みなぎる力 の三つの教育目標の達成を図るべく、全ての教育活動に取り組んでいます。

全教職員が意欲的に各自の知恵を出し合って各組織や委員会活動の活性化を図り、学校の機能を発揮することに努めています。さらに、人間関係を大切にし、互いの信頼の下、協力・協働の精神を基に教育活動を進めています。

一 平和講演会の実施

六月に桶川市自治文化課とタイアップして実施しました。埼玉県原爆被害者協議会より講師の方をお招きして、「ふたたび被爆者をつくらない」というテーマで講演をしていただきました。原爆や戦争の悲惨さを知ることにより、自分たちの置かれている平和の有り難さやそれを維持していくために必要なことなどに

二 生徒総会

生徒たちの自治的な活動によって生徒会活動を活発にし、よりよい学校づくりをしていくために年に二回行っています。各種委員会から出された活動原案を各学級で討議→委員会で再度討議→総会での意思決定という流れを通して、将来の主権者としての自覚を育んでいます。



自治・自立 桶川東中学校



人権感覚の育成 加納中学校

本校2年次の取組「進路保障、就職差別について考える」を中心に

埼玉県立桶川高等学校

今年度の主な活動として、六月には「子どもの人権について考える」と題し教職員対象研修会を実施、十二月には全校生徒を対象に「日本における外国人の人権」などについての講演会を実施しました。

一月には総合的な学習の時間で二年生を対象に『進路保障、就職差別について考える』というテーマでクラス単位で授業を行いました。現在就職時に使用されている「統一応募用紙」と、以前各企業が独自に様式を定めていた就職応募用紙である「社用紙」の内容を比較することを中心に、「就職選考は本人の能力、意欲、適性などで行われなければならないことに気づくこと」を目標に授業を展開しました。生徒の感想は、「以前は採用

時に本籍や家族の職業や収入、資産など、本人にはどうすることもできないことを聞かれ、それで採用が左右されることがあったと知り、驚いた。」「今は統一応募用紙になってよかったと思う。」「会社の人から家族構成や親の職業を聞かれたら、話してしまうと思う。聞かれる必要のないことで差別につながるのだと初めて知った。差別の意識とは難しいなと感じた。」など、さまざまなものがありました。

進学や就職を間近に控えるこの時期、生徒たちにとって、自分の身近なこととして人権を捉え、考える機会となりました。今後とも内容を検討し、充実したものにしていきたいと思っています。



心の交流「なかよしタイム」

桶川小学校

本校では、「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育てる」を人権教育の目標とし、教育活動全体を通して児童の人権意識を高める取組をしています。

その一つとして、心の交流を図るなかよしタイムがあります。これは、異学年との遊びの場です。すべての学年が数名ずつ集まりなかよしグループを作り、六年生が遊びを企画、運営します。六年生が遊びのやり方を説明したり、うまくできない低学年を助けたりしながら遊びを進めていきます。

低学年は楽しく遊べたことに喜びを感じ、高学年は低学年のことを考え、工夫していく中で、低学

年が楽しんでくれたことに喜びと達成感を味わうことができます。

遊び終了時には次のような感想がありました。

- ・一年生が楽しく遊んでくれてよかったです。
- ・お兄さんやお姉さんと一緒に遊ぶことができて楽しかったです。

このように相手の立場を考えて行動することの大切さを学びます。

異学年活動を通じて、相手を意識し、互いを大切にしながら生活しようとする心を育てていきます。その中で、いじめ防止に努めていき、心の交流を深める教育活動を工夫していきたいと思っています。



人権教育DVDの紹介

〈概要〉

HRの時間、自閉的傾向のある彰子へのからかいを注意したこと、有里は彰子とともに文化祭の実行委員をするハメになる。高校最後の文化祭、出しものは巨大空き缶壁面に決まるがやる気のない者ばかり。暑い中での作業、クラス内での対立、いろんな困難を乗り越え大量の空き缶が集まった。しかし文化祭前日、大型台風が彼らを襲う！果たして空き缶壁面は完成するの



〈あした・きらりん(ドラマ27分)〉

〈概要〉

小学生と家族、日本で働く外国人の生活を通して、偏見への「行動」や「絆」を深めていく過程を描き、今私たちが一人一人に何が求められているのかを考える「外国人の人権」「子どもの人権」「同和問題」「二人ひとりの人権を大切にするために」の四つの課題を設定し、深め合いたい課題を選んで視聴できるようにした。人権が尊重された豊かな社会を築くために何が必要なのか、また何ができるのかを考えるきっかけとなる。



〈響け 大地に、人の心に(ドラマ・解説41分)〉

桶川市教育委員会では、桶川集会所(ユニティ)と加納集会所(パルレ)において、夏休み子ども教室を毎年開催しています。この教室は、体験活動や人権学習を通して人権意識の高揚を図ることや、市内の小学生の交流を通して心豊かな子どもたちを育てることを目的としています。今年度は、桶川集会所で小学生二十六人、加納集会所で小学生二十二人が、それぞれ二日間の夏休み子ども教室に参加しました。

下の写真は、折り紙サークルの二名が講師として指導にあたった折り紙教室の様子です。「海の中」をテーマに、カニと魚を折り紙で折り、それをクリアファイルに貼り付けて海藻で隠れるように仕上げました。参加者からは「難しかったけどかわいい海の中を作ることができてうれしかった」「先生たちが分かりやすく教えてくれてよかった。」などの感想が寄せられました。



また、習字教室は、集会所文化講座書道教室の先生に指導していただき、子どもたちは、夏休みの宿題を兼ねた作品を仕上げました。参加者からは、「他の人も書いて緊張し、集中して書けた。」「いい字が書けてよかった。」などの感想が寄せられました。

そのほか、人権啓発アニメの鑑賞も行われ、子どもたちは夏休み終盤を笑顔で過ごすことができました。

桶川市集会所 夏休み子ども教室
生涯学習スポーツ課

※視聴をご希望の方は、生涯学習スポーツ課までお申し出ください。

人権作

道案内

小四



見えない人には伝えにくいことがあるんだと思いました。

そこでおいじさんに

「いっしょに行きましょう。」

と声をかけました。

じっさいに案内するのはたいへんでした。「こっちです。」や「そちです。」と言ってもわかってもらえません。そこで、できるだけ

もうどう犬によびかけました。もうどう犬は上手にわたしのあとについてきてくれました。ふつうは家から小学校まで三分で着くところを、倍もかかってやっととう着きました。

わたしはふだん、はずかしがり屋ですがこうして人助けができてとてもいい気持ちになりました。

小学校に着くともうどう犬がわたしの手をなめてくれました。まるでおれいを言っているようでした。

「桶川小学校はどこですか。」と聞きました。おじいさんはもうどう犬を連れていました。

お母さんは目印を教えようとしていました。でも、おじいさんは、「何メートルぐらい先をまがりますか。」

と聞いてきます。わたしは、目



編集後記

みんなで築こう 人権の世紀 ～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～

様々な人権課題解決のために、私たち一人一人が人権感覚を磨き、自らの課題として受け止め、日々の実践に向けて努力していきましょう。

桶川市教育委員会生涯学習スポーツ課
〒363-0012 桶川市末広2-8-29
TEL 048-728-4111 (代表)